

2013・2・16

藤本
正敏

兵庫県建築士会姫路支部・青年部会が、20名の定員で今年の2月中旬に長崎の軍艦島を見学研修する旅行を計画していた。
昨年、明治村を見学した際に、軍艦島を持った建物があり、気になっていた島であった。まさかこんなに早く訪問できる機会がやってくるとは思わなかつた。しかし、2月と云えは7・8月同様に海が荒れて、島への上陸率が悪いと聞いている。万が一の場合、船が出港しても、軍艦島を周回して、中でビデオを見せられて終りになるかもしれない。
それでも、個人的に長崎は修学旅行で見残した場所を作ってしまいそのままである。天候は、運ませとして、参加申込をする。
知らなかつたが、長崎では長崎ランタンフェスティバルの真っ最中・・・
どんな旅になつたのか・・・

軍艦島スケッチ／他



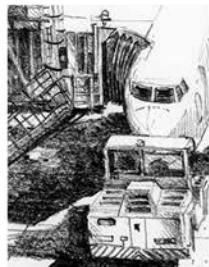
2013.2.16. Gunkan-jima. Masatoshi Fujimoto

目次

目次	軍艦島・他	出発、
参考資料	長崎市内	四海樓付近を見る、
あとがき	長崎港内	長崎湾内の船、
	軍艦島	女神大橋、
		赤灯台、
		地理、
		上陸、
		貯水槽と第3号棟を見る、
		第7号棟を見る、
		第2堅坑抗口桟橋を見る、
		総合事務所を見る、
		仕上げ工場を見る、
26	第70号棟を見る、	
25	海上より、	
	鳥瞰スケッチ、	
	海上（北東の角）より、	
	眼鏡橋、	
24	長崎ランタンフェスティバル、	
23	旧グラバー邸、	
22	旧ウォーカー住宅、	
21	大浦天主堂、	
20	長崎原爆資料館、	
19		
18		
17		
16		
15		
14		
13		
12		
11		
10		
9		
8		
7		
6		
5		
4		
3		
2		
1		

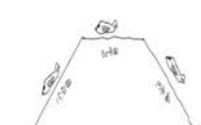
出発

兵庫県神戸市中央区の沖にある人工島ポートアイランド、沖南側の人工島に建設された。近隣には大阪国際空港と関西国際空港が存在し、これによって関西三空港時代を迎えた。愛称は「マリンエア」で、2800m滑走路一本を持つ海上空港である。空港コードは元々神戸が持っていた都市コードと同じUKBである。運賃取扱上は大阪と同一とみなされるので、都市コードの大坂OSAには伊丹ITM・関西KIX・神戸UKBの3空港がある。



長崎空港

この空港は、日本長崎県大村市にある。大村湾に浮かぶ有人島である島を基点に1975年5月1日に世界初の海上空港として開業し、あのコントロールが飛来した数少ない空港です。



長崎まで一時間半のフライトである。集合が8時半で、出発が9時15分。今回の参加者は、14名と団体扱いに1名足りない人数だが、移動に便利なレンタカーには、丁度いい人数です。気温も寒さ対策を十分する様にとの呼びかけにも、前日までの雨天はすっかり晴れ2月とは思えぬボカボカ陽気です。長崎に着いてもこの天気だと最高と期待をしながら10分遅れの飛行機に乗り込む。

長崎市内

四海樓付近を見る

2013.2.16. Nagasaki. Masatatsu Fujimoto.

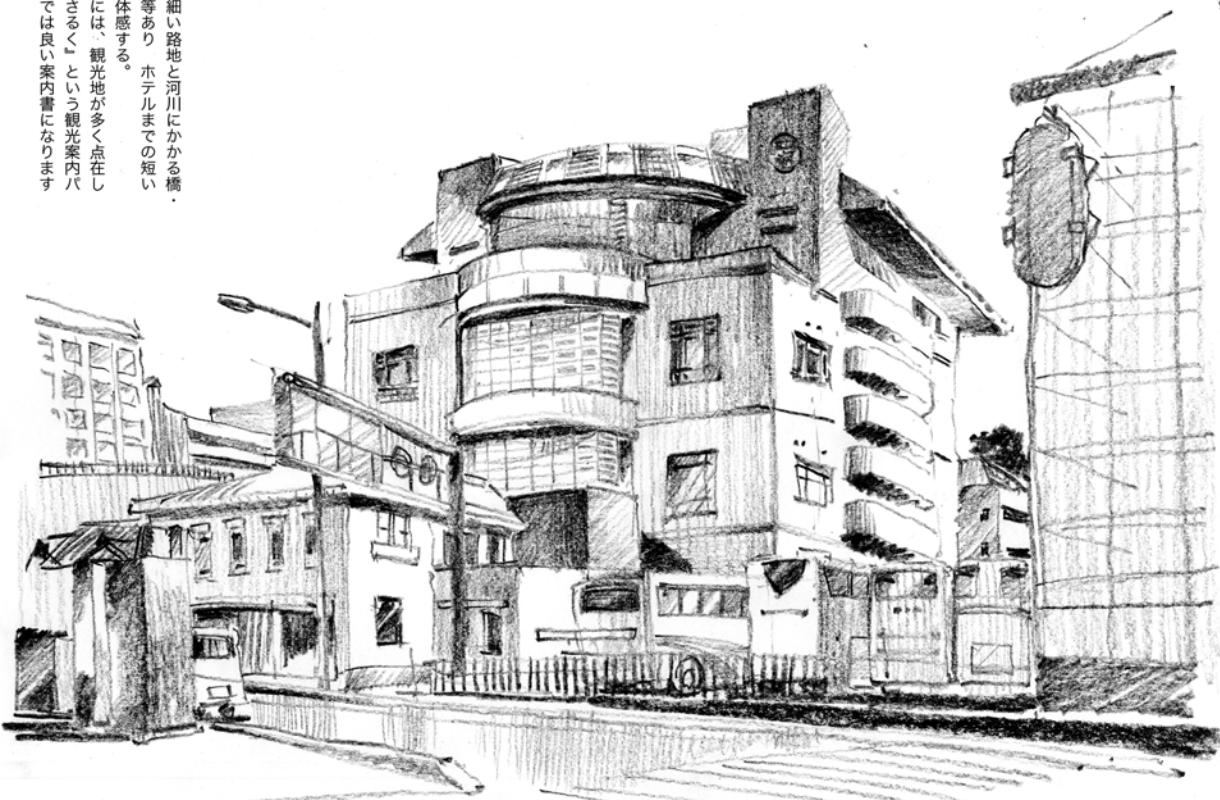
予定通り長崎空港に着陸。天気は、晴れ。気温も程々暖かい。

7名+7名の2台のレンタカーは早速、長崎市内へとひと走りする。高速を下りると、どこかで見た市電が見え始める。車は、太い幹線を走る。さすが長崎の町は直線をたもつ区間はわずかで、すぐに左右に曲がる。

市内に入り、道路に面して、独特の形をした建物が目に飛び込む。グラバー邸園の近く長崎チヤンボンの発祥店「四海樓」の建物だそうです。

車中からだが、細い路地と河川にかかる橋・商店街・中華街等あり、ホテルまでの短い時間だが長崎を体感する。

実は、長崎市内には、観光地が多く点在している。「長崎さんく」という観光案内パンフレットが街では良い案内書になりますよ。



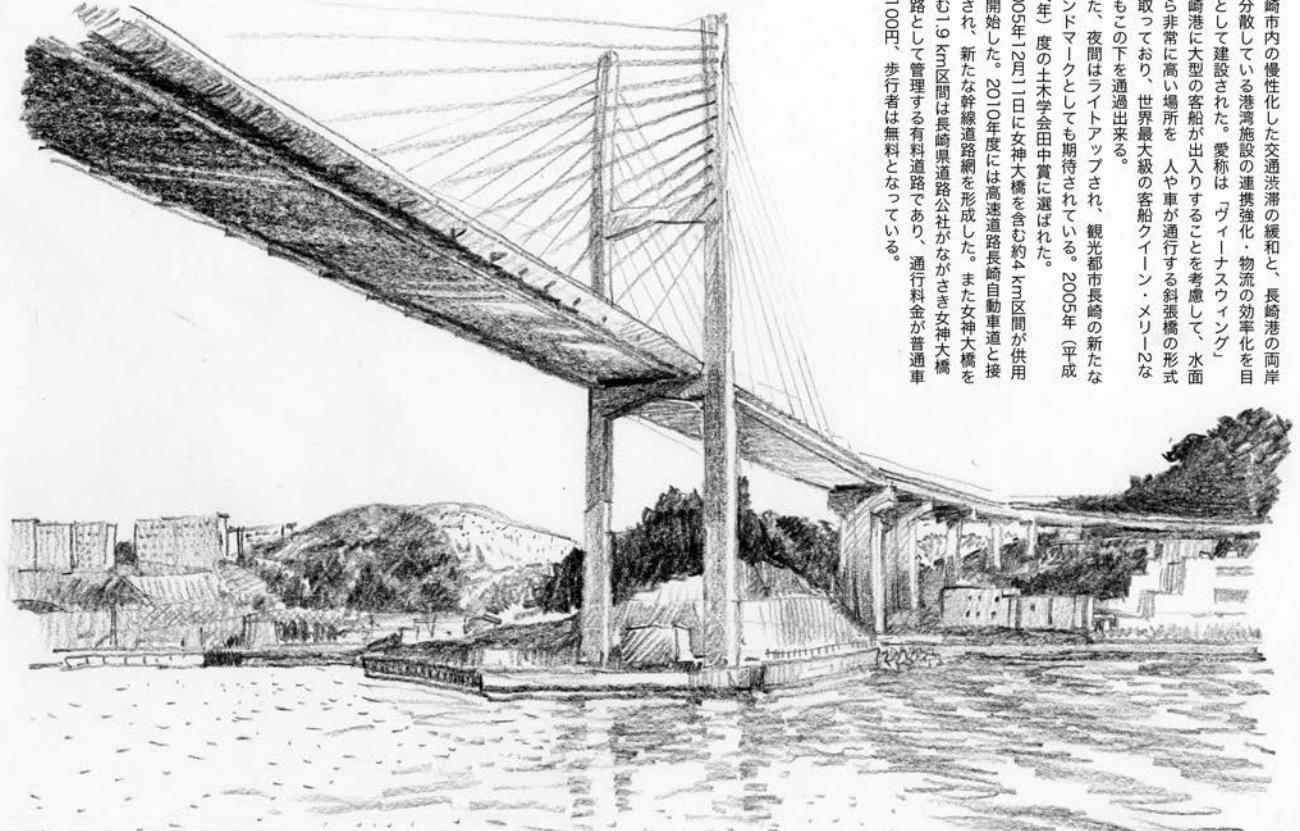
長崎湾内

女神大橋

長崎市内の慢性的な交通渋滞の緩和と、長崎港の両岸に分散している港湾施設の連携強化・物流の効率化を目的として建設された。愛称は「ツバーナスウェイブ」長崎港に大型の客船が出入りすることを考慮して、水面から非常に高い場所を人や車が通行する斜張橋の形式を取つており、世界最大級の客船クイーン・メリーハンドルの下を通過出来る。

また、夜間はライトアップされ、観光都市長崎の新たなランドマークとしても期待されている。2005年（平成17年）度の土木学会田中賞に選ばれた。

2005年12月11日に女神大橋を含む約4 km区間が供用を開始した。2010年度には高速道路長崎自動車道と接続され、新たな幹線道路網を形成した。また女神大橋を含む19 km区間は長崎県道路公社がながさき女神大橋道路として管理する有料道路であり、通行料金が普通車で100円、歩行者は無料となっている。



2013. 2. 16. Nagasaki. Masatoshi Fujimoto

長崎湾内

長崎湾内の船



長崎湾には、三菱重工業長崎造船所がある。

日本初の造船工場「長崎鉄所」として出発。江戸幕府から明治政府に管理が移る後、「1877年(明治20年)」三菱に払い下げ、以後民営の造船所として多数の艦船を建造した。

戦艦「武藏」を建造したことでも有名である。

戦後、三菱重工は3社に分割されるなど、親会社は経営曲折したが長崎造船所は存続。現在も造船所は稼動し民間船舶の他海上自衛隊の自衛艦も多数建造している。1950年代には後甲板の傾斜に特徴的な設計を持つ護衛艦を多く建造し、護衛艦における「オランダ坂」の名前の由来となった。

同型艦

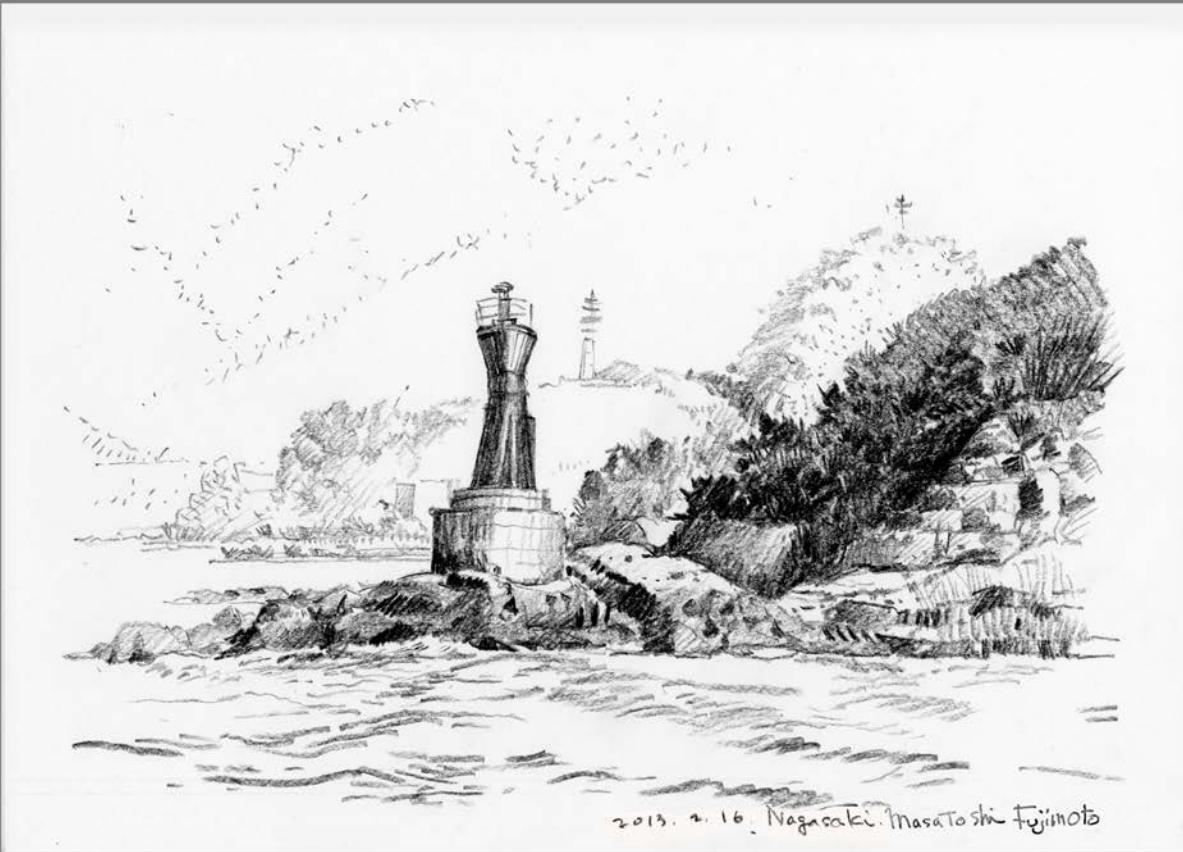
艦番号	艦名	建造	起工	進水	竣工	所属
DDG-177	あたご	2004年 (平成16年)	2005年 (平成17年)	2007年 (平成19年)	2007年 (平成19年)	第3護衛隊群 第2護衛隊
	三菱重工業 長崎造船所	4月15日	6月24日	3月15日		
DDG-178	あしがら	2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)	2008年 (平成20年)	2008年 (平成20年)	第2護衛隊群 第2護衛隊
		4月6日	6月30日	3月13日		

右がイメージス艦　あしがら
左が自衛艦　すずつき
「すずつき」は、中期防衛力整備計画に基づき平成21年度計画5,000トン型護衛艦2246号艦として、三菱重工業長崎造船所で2011年3月18日に起工し、2012年10月17日に進水・命名され、2014年3月11日に就役する予定。2011年10月、三菱重工長崎造船所にて差行された進水・命名式において、戦艦大和の沖縄待攻作戦に参加し大損害を受けながらも帰投し終戦を迎えた駆逐艦涼月に因んで「すずつき」と命名された。

長崎湾内

赤灯台

軍艦島に行く途中に見だ
長崎市香焼町の長崎湾入口の赤灯台です。



軍艦島

地理

軍艦島（端島）は、長崎港から南西の海上約17.5kmの位置にある。

旧高島町の中心であり同じく炭鉱で栄えていた高島（の南端）からは南西に約2.5kmの距離があり、長崎半島（野母半島）からは約4.5km離れている。端島と高島の間には「中ノ島」という小さな無人島があり、ここにも炭鉱が建設されたが、わずか数年で閉山となり、島は端島の住民が公園や火葬場・墓地として使用していた。そのほか端島の南西には「三ツ瀬」という岩礁があり、端島炭鉱から坑道を延ばしてその区域の海底炭鉱でも採炭を行っていた。

端島は本来、現在の3分の1ほどの面積しかない小さな瀬であった（当時の瀬の大きさは南北約320m、東西約2120m）。その小さな瀬と周囲の岩礁・砂州を1897年（明治30年）から1931年（昭和6年）にわたる6回の埋め立て工事によって拡張したもののが現在の端島。その大きさは南北約490m、東西約160mで、南北に細長く、海岸線は直線的で、島

全体が護岸堤防で覆われている。面積は約6.3ha、海岸線の全長は約1200m、島の中央部には埋め立て前の岩山が南北に走っており、その西側と北側および山頂には住宅などの生活に関する施設が、東側と南側には炭鉱関連の施設がある。

年間平均気温は-5から-16℃。平均降水量は2000mm、冬は比較的の雨量が多い。夏は南東風・南風、冬は北西風・北風が多い。端島を舞台とした1949年（昭和24年）の映画「緑なき島」のタイトルも現れているが、この島には植物がとても少なく、住民は本土から土砂を運んで屋上庭園を作り、家庭でもサボテンをはじめ観葉植物をおくところが多かった。



図2 端島

（出典：筆者撮影）

（出典：筆者撮影）</p

上陸

第一見学ステージで目に飛び込んで来たのは貯水槽を載せる端島の山肌だった。社宅へつながる道路が斜めに走る。地肌は大半コンクリート擁壁におおわれている。島の人にとってはメインストリートで見晴らしもよく転落防止のコンクリート壁が数カ所壊れているが 説明によると意外と広い道幅らしい。



2013.2.16. Gunkanjima. Masatoshi Fujimoto

貯水槽と第3号棟を見る（下）

貯水槽の真水は船で運ばれていた貴重な物であった。

人口が5000人を超えた頃には、島へ海底送水管が設置（1957年）されていた。電気も自家発電でまかなわれていたがのちに、海底ケーブルで供給されている。

これらはどちらも日本初の試みであったらしい。

第3号棟を見る（左）

鉄筋コンクリート造の4階建て20戸の社宅である。
幹部用の社宅で唯一風呂付きの社宅だった。
3LDKの部屋だそうだ。



2013.2.16 Gunkanjima. Masatoshi Fujimoto



2013.2.16 Gunkanjima. Masatoshi Fujimoto

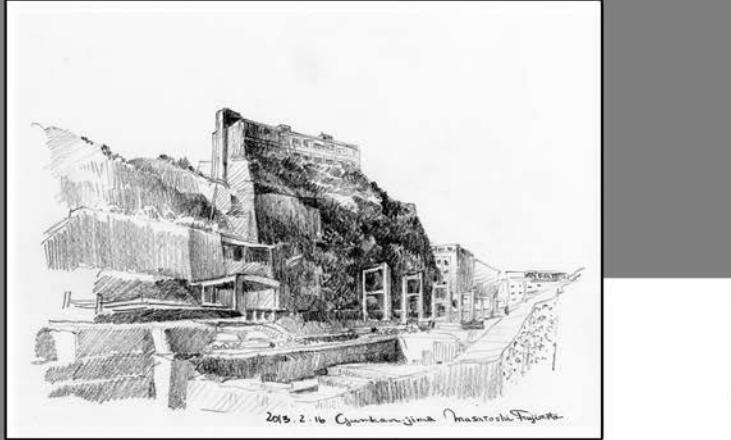
第70号棟を見る（下）

第70号棟は、端島小中学校である。

鉄筋コンクリート造・7階建て。初めは端島の岩礁に建てられたが大正10年に町立となつたとき現在の位置に移設された。

1～4階が小学校で、5・7階が中学校、6階は講堂・図書館・音楽室、7階には理科室など特殊教室が設けられていた。

1970年には体育館や給食設備なども新設され、給食を運ぶ島で唯一のエレベーターもあった。



第3号棟を見る

第3号棟は、鉱員社宅（幹部クラス）ある。
鉄筋コンクリート造・4階建て。部屋には風呂がある。
昭和34年に建設された。



第2堅坑坑口桟橋を見る

第2堅坑坑口桟橋階段を見る。
主力坑口だったところで、

堅坑には籠が2階建てで深さ600メートル
ものエレベーターがあり、東京スカイツリーの速度より早く降りていったようだ。

初めて乗った者は恥ずかしい話 お漏らしをしてしまったとか。



軍艦島

総合事務所（浴槽跡）を見る

第2見学ステージに入り説明を受けたのがレンガ造りの浴場棟です。作業時間が過ぎればエレベーターで引き上げられる。無事に帰った安心感と新鮮な空気、体を洗える一番楽しみな時間です。

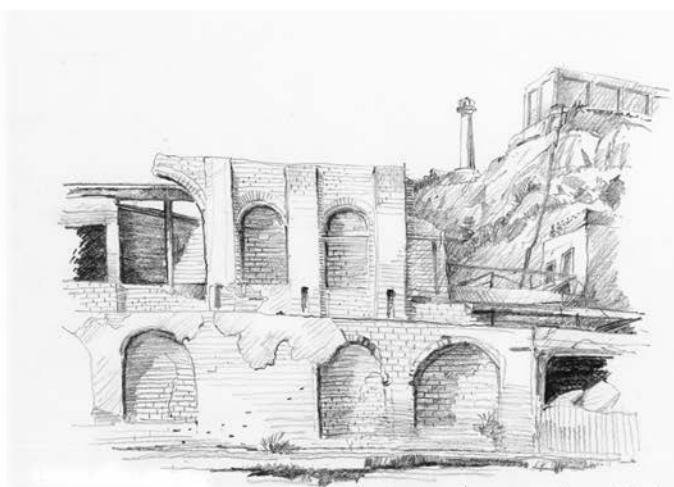
共同浴場の経験は同様かと思いますが、あまり浴室を明るくしないのです。浴槽はいつも真っ黒だったからです。でも温かく、気持ちよく、体の垢がとれれば最高。まず海水の風呂に入つて服を洗い、その後体を洗い、そして最後に真水で海水を洗い落として、家路についた。今はレンガ造りの大半が崩れています。

防波堤のディテール（左）



2013.2.16. Gunkanjima.

Masatoshi Fujimoto



2013.2.16. Gunkanjima. Masatoshi Fujimoto 13

仕上げ工場を見る



2013.2.16 Gunkan-jima, Masatoshi Fujimoto

軍艦島

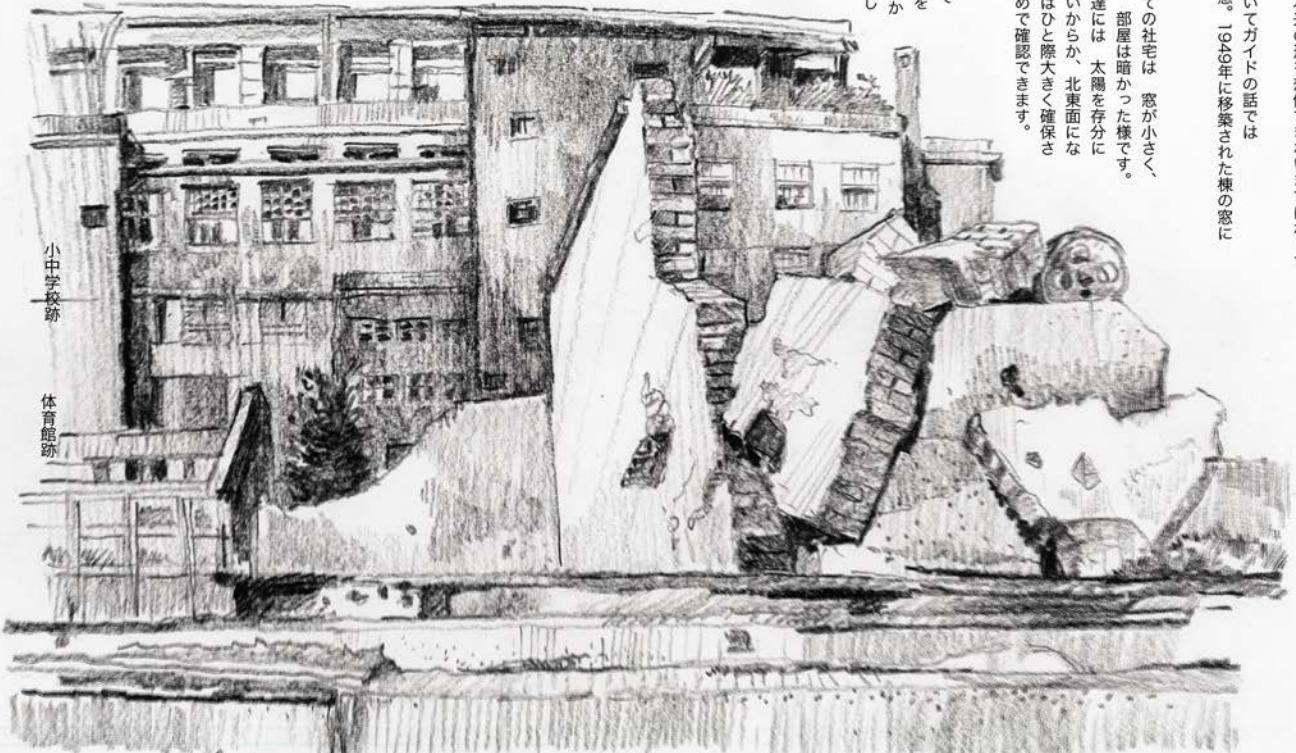
第70号棟（小中学校棟）を見る

手前はプロアー機械室跡だと思います。レンガ造りの壁は大きく崩れ、鉄骨は海水で錆びて、本来の形を想像できないまでになっています。

奥に見える第70号棟についてガイドの話では、島民は5000人の超過密状態。1949年に移築された棟の窓についてです。

高層アパートの草分けとしての社宅は、窓が小さく、また隣接棟との隙間も狭く、部屋は暗かった様です。親達は、少なくともこども達には、太陽を存分に浴びさせてやりたいとの思いからか、北東面になると想いますが、校舎の窓はひと際大きく確保されていて、それが海上からの眺めで確認できます。（スケッチの反対側です）

1970年鉄筋コンクリートで建造された体育館は、屋根を鉄骨で製作したためかあれから40数年ですが、海水まりの風にはひとたまりもなかつた様です。

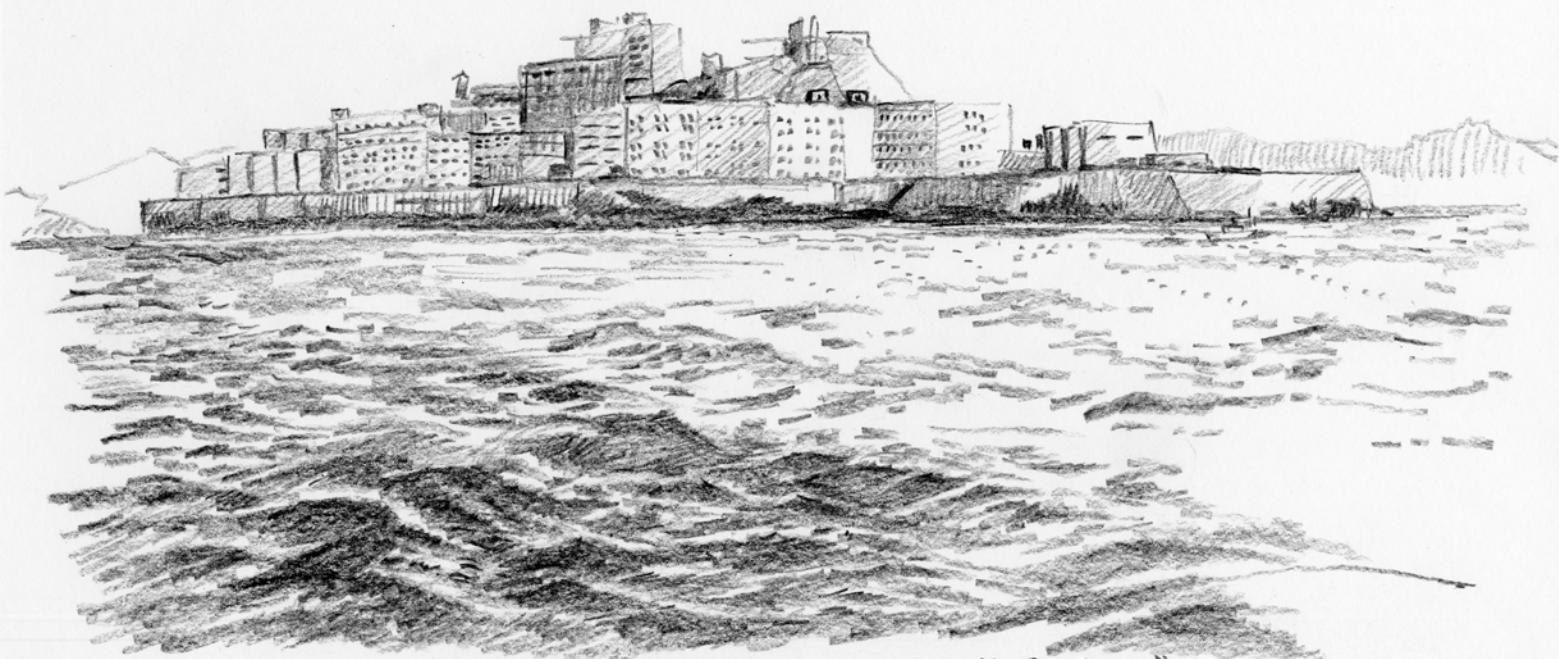


2019.2.16. Gunkan-jima, Tomonatsu Fujimoto

軍艦島

海上より

端島が軍艦島と呼ばれる様になつたのは、コンクリート護岸に囲まれた島の姿が三菱長崎造船所で建造中の戦艦「土佐」に似ていたためと言われている。



2019. 2. 16. Gunkan-jima Masatoshi Fujimoto 16

軍艦島

鳥瞰スケッチ

島民の生活は過密な環境の中でも楽しく過ごせる工夫があった様だ。

なかでも植物に対して熱心だった様で屋上に土を運び菜園を設けている。子ども達もここで稻作の体験もしているが、これについては誇張的という指摘がある。あまり水まき等で住民に迷惑のかからないサポートが流行ったという。

島山後調査では二十数項目の植物が確認されており、特にオニヤブマオ（イラクサ科）、ボタンボウフウ（セリ科）、ハマスマスキ（イネ科）の3種が端島の主な植物として挙げられているから島民と植物は縁がないと言いたい。島山には生け花が人気であったという。



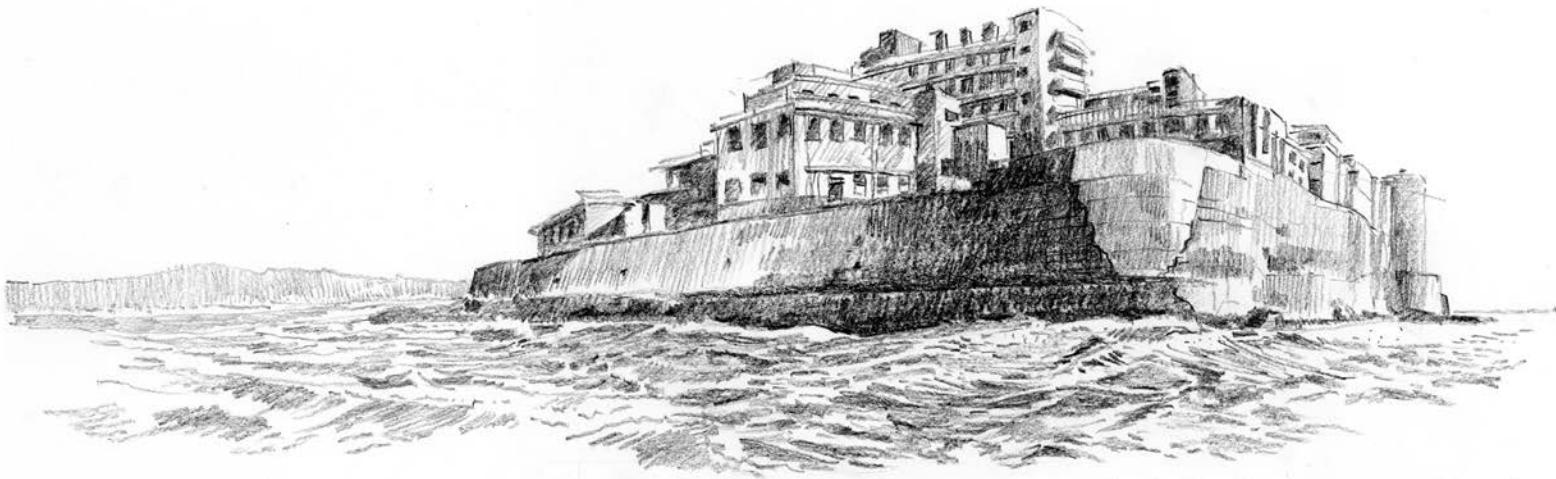
Wは木造の建物
RCは鉄筋コンクリート造の建物

軍艦島

海上（北東の角）より

軍艦島の北東の角は波浪にさらさ
れるたびに、防潮堤の壁が崩れ易
くなるとの事。唯一島の防波堤の
角を丸くしている場所である。
災害から大きな被害をさけられる
様にしたとか。

病院・隔離病棟が正面に見える。
奥には鉄筋コンクリートの社宅
がそびえる。



2013.2.16. Gunkanjima. Masatoshi Fujimoto

眼鏡橋

眼鏡橋（めがねばし）は、橋の種類のひとつ。本来はアーチが2つ連なった石造2連アーチ橋を指す。2連アーチ橋自体と水面に映る橋とが合わさった姿が眼鏡のよう見えることが、その名の由来といわれている。広義では、単アーチ橋や3連以上のアーチ橋も含めた石造アーチ橋全般を眼鏡橋と呼ぶ。また、石造だけでなく煉瓦造のものも眼鏡橋と呼ばれることがある。個別の橋の名称や別称としても用いられる。



長崎ランタンフェスティバル

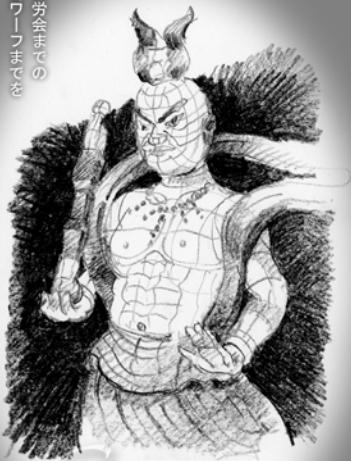
中島川公園余場は、眼鏡橋付近においては河川上は 黄色いランタン一色。川面には鶴が遊ぶ姿がランタンで創作されていた。河川の沿道は、左岸側に過去に利用された千支のメインオブジェが飾られ 右岸側は錦鲤のオブジェが緑の樹木の上を 遊々と泳いでいた。眼鏡橋には 商売の神として中国では絶大の支持を得ている関公の像と七福神の像が沿路をはさんで立っていた。中島川は 河口水辺沿いも散策でき 低水位の時には渡れる飛び石も設置されている。若い人にとつて 格好の記念写真の撮影ポイントで 対岸の橋から眼鏡橋をバックに順番待ちの状態で写真撮影を楽しんでいた。

ここは橋が非常に多くかかっており 右左ど 橋を楽しむ人でごった返していた。

長崎ランタンフェスティバル



長崎ランタンフェスティバルに運良く重なった研修懇親会までの数時間どうやって時間を過ごすか。ホテルから長崎出島ワーフまでを直線で散策するには、能がない。そのベルナード・觀光通りのイベントを見て、眼鏡橋をとにかく見たい。そのあとは、長崎新地中華街・湊公園のモーの会場の獅子舞・長崎県美術館の空間を肌で感じてみたい。早歩きと、ストップの繰り返しで楽しい春節祭を堪能できた。



長崎に住む華人が旧正月を祝う祭りを長崎新地中華街で行っていた春節祭という祭りが1994年より長崎市全体でのイベントとなり、中華街以外の場所にも中国提灯（ランタン）が飾られるようになつた。

旧暦の1月1日を初日として約2週間、新地中華街を中心に1万数千個のランタンや点灯式のオブジェが飾られる。暦の関係で、年ごとに開催期間は前後で移動する（2013年は1月31日～2月14日）。

2013年には皇帝パレードに長崎市出身の金子昇が参加し、期間中に過去最高の101万人が来場した。



貿易商であり、グラバー商会を設立したトーマス・フレーク・グラバーが住んでいた日本最古の木造洋風建築。小山秀にみる1863年(文久3年)の建築²⁸。裏手には馬小屋や貯蔵庫なども残っている。三菱重工業長崎造船所を見下ろす位置にあったため1939年(昭和14年)に戦艦武藏の建造を秘匿する目的で買収され所有が三菱重工业へと移った。1957年(昭和32年)には同造船所の創業100周年を記念して長崎市へ寄贈された。1961年(昭和36年)6月7日、主屋・付属屋が国の重要文化財に指定された。

旧グラバー住宅(右)



2013.2.17. Nagasaki Gotoe-Tei
Masatoshi Fujimoto



2013.2.17. Nagasaki Gakko-Tei
Masatoshi Fujimoto

長崎高等商業学校 (現・長崎大学経済学部)

創立時の建物。外側は洋風
だが中は畳敷きである。

日本の産業に貢献し
新しい時代への扉を開
いた長崎居留地の人々



谷田富二郎

長崎市内

グラバー園

日本の産業に貢献し、
いた長崎居留地の人々



吉庵さか助



フレデラ・クリント



ウーリー・アーチン



2013. 2. 17. Nagasaki Masatoshi Fujimoto

旧ウォーカー住宅

旧ウォーカー住宅は
ウォーカー商会を設立した口バー
ト・ネール・ウォーカーの旧邸。4つ
の部屋がある。もとは大浦天主堂の
そばに建てられていて、
屋根から突き出した底など日本趣味が
反映されている。

大浦天主堂

大浦天主堂（おおうらてんしゅどう）は、長崎県長崎市にあるカトリックの教会堂で、1865年（元治2年）に建立された。日本最古の現存するキリスト教建築物。正式名は日本二十六聖殉教者堂。その名のとおり 日本二十六聖人に捧げられた教会堂で、殉教地である長崎市西坂に向けて建てられている。

1953年（昭和28年）に国宝に指定。また、2007年（平成19年）にユネスコの世界遺産（文化遺産）暫定リストへ掲載が決まった。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を構成する文化財の一つである。観光客の増加に伴い、1975年（昭和50年）に、天主堂に登る石段横の隣接地にカトリック大浦教会が建てられ、毎日のミサは大浦教会で行われている。

写真撮影は外部のみですが、ステンドガラスの色合いは確かにすばらしい。

木造2階建で、2階部分はテッキのみで小部屋ではない様です。祭壇以外は5スパンの柱割り。ちなみに原爆投下の被害はあったが焼心から比較的離れていたため焼失は免れた様です。



2019. 2. 17. Nagasaki masatoshi Fujimoto

長崎市内

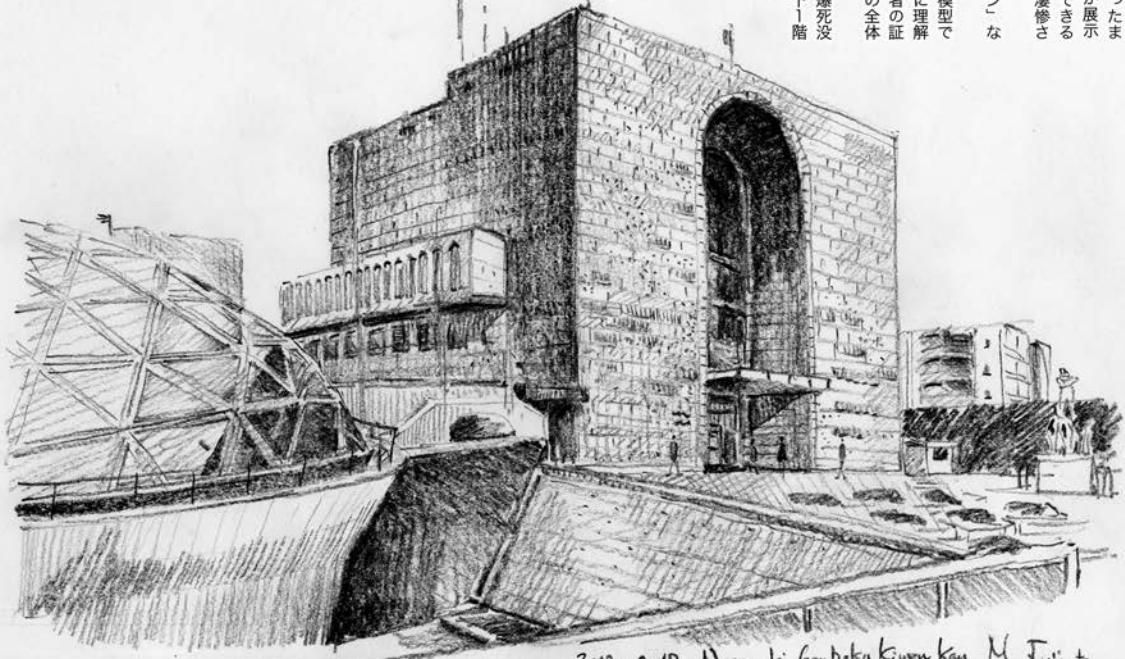
長崎原爆資料館

「1945年8月9日」 「原爆による被爆の実相」
に沿って、資料、写真、解説パネルなどが
展示されている。
館内には折れ曲がった工場の鉄骨、爆心地側
の部分が熱線により焼けた橋脚など、原子
爆弾によって破壊された建物の一部が、移設
されているほか、原爆投下で時が止まつたま
まの「10時の時計」などの被爆資料が展示
され、一部の資料には手で触ることができる
ようにしてあり、原子爆弾の悲惨さ、凄惨さ
を伝えている。
長崎型原爆とも呼ばれる「ファットマン」な
どの模型も展示されている。
なかでも、長崎市内外の地形を使った模型で
は、原爆被害の面的な広がりを視覚的に理解
することができる。原爆記録像や被爆者の証
言ビデオなどの上映もあり、長崎原爆の全体
像を学ぶことができる。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が隣接しており、地下1階
・2階に連絡通路がある。

建物

爆心地に臨む高台に位置し、地上2階・
地下2階からなる。設計は久米設計が
行なった。爆心地周辺の景観を害さない
よう設計したため、地下部分が有効
活用されており、屋上部分は庭園化さ
れている。玄関は地下1階、展示スペ
ースは地下2階に設けられており(た
だし映像室は地下1階部分)、入館者
はらせん状の通路を下っていく。地下
1階より上には、平和関係のイベント
で活用されることが多いホールや図書
室、長崎市の事務室がある。



2013. 2. 17. Nagasaki. Genbaku Kinenkan M. Fujimoto.



あとがき

兵庫県建築士会姫路支部は姫路市内の建築に係っている人達の集まりである。以前は200名を超えていたが、今は約180数名になっている。その中の青年部は、また人数が限られている。しかし前回の直島見学研修と今回の軍艦島の見学研修はいい企画だと思つ。今回、多忙の中でも、80才を超える会員から二十歳すぎのギャルまで参加した楽しい研修会でした。

長崎には、あつという間の飛行機での移動でした。水平飛行でベルトサインが消えたかと思ひきや、着陸態勢のサインランプが点灯する。国内移動もここまで来ましたかね。空港から街への移動も、2台のレンタカーで、高速道路を利用・・・うかつとしてると更に、となりの街まで行つてしまいそうな気配と快適です。

今回の目的は、軍艦島の見学研修。グラバー邸園や坂本龍馬の龜山社中等も研修対象です。気にして天候は、陽気な日和になりました。寒さ対策の用意は、昼食後の満腹とよぎにすっかりだまされ、全てをリュックごとホテルに預けてしまいました。軍艦島への移動は大変でした。本来、船の中にいれば、何ともなかつたが、何にでも興味津々の私は、乗船中も船のテッキにいたもので、風に煽られ寒いし、船は2メートルの波に揺れるし、大変でした。

しかし、ここで案内船での話をしておきたい。往復はしっかりした案内で見事な程管理され、慣れていた。

船には、定員150名乗船客（実際は100程度の乗船客）に対して船長は勿論、チーフ1名、サブ2名、ティック2名、各室（2部屋）の男性スタッフと多くの乗務員が対応していた。島に着くまでに端島の成り立ち、係つた人・島の過去・現在についてテレビモニターの映像と同時に情報・解説がありました。島に接岸・上陸。このときの乗務員の対応は真剣でした。左右2人で、船を抱える様にし、前にも万が一のスタッフが待機し、一人一人、波の調子にあわせて、かけ声とともに上陸したのです。

護岸壁は想像していた以上にしっかりしていた。中に入ると40数年？と疑いたくなるほどの廃墟が目前に現れた。見学ステージは3カ所で、会社・事務所となっていた広い場所の改修し易かつた場所のみ。社宅側は勿論、立ち入り禁止の柵の向うでした。しかし、これもA3サイズのパツチワークした資料を3人が提示し、過去の人々の様子・社宅の間取り・建物の活躍していた当時の姿・護岸壁の作られ方等、上陸した者を飽きさせない案内でした。案内人も、当時の鉛夫のヘッドランプ付きのヘルメット姿。勿論、一人目だっていました。

観光船は5社あるとの事で、時間を見つめて、かち合つても3つのステージをうまく使ってやつておられる様だ。

船に戻ると、近づく事ができなかつた社宅を見る為に、島を半周してくれた。

はじめは、第〇号棟の小学校・中学校を海から見たが、その場で旋回して、石灰の積み出し船（はしけ）を見て社宅群の方へ移動した。荒波は衰えておらず、横揺れが加わり、さらに大変な見学になりました。

海上からの軍艦島には、たくさん建物が建ち並んで見えました。社宅群も種類分けをすると、「日雇い労務者用」・「単身労務者用」・「所持持ち家族用」とある従業員用の社宅。会社と社宅の間に「娯楽施設」が設けられ、社宅の中に「購買会（マーケット）」があった。他にも「病院」・「警察（交番）」・「宗教施設」・「神社」等もあった。

北東の荒海の面した方向に、際立つて印象的だったのは、住宅群の中でも、防波堤代わりになつたと思われる窓の小さな白い建物でした。

島の給料は1・4～5倍よかつたためにテレビの普及率も島内98%の時

外では4%にも満たなかつたとか。

金があれば、島での酒飲みも豪快であつたらしく、酔っぱらは、一夜の宿として交番の檻を利用したらしい。大きな事件はこの島では起きなかつたと云う。多くの人々が平和に暮らせる様に日頃から、みんな仲良くなっていたのでしょうか。

子どもの遊びは、どこも同じである。島の中に25メートルプールが出来たが、遊泳禁止の外海で泳ぐ豪傑もいた。

今と違ひガミガミ云われなかつたとか。島の汚水は垂れ流して、島の廻りをただようこともあり、子どもの遊泳等が誘因かもわからないのが疫病等病気になる事もあり、北東の角の病院に助けられたとか。その横に隔離病棟も併設されている。運動もハイカラである。テニスコートがある。勿論、学校の運動場もあるが長さはない。

1970年に労働者側から採炭停止の話を持ち出され、山は閉山したが、数ヶ月で職員・社員は立ち去り、退職金もちゃんと支払われて新しい未来に進んでいったと云う。この端島出身の歌手・作曲家の岡崎律子、声優の石森達幸ら有名人もおられる。廃墟になつてゐる島の上部も多分海底下の坑道も、忘れ去られる事なく、いろんな意味で人のすごさは語り継がれるでしょう。

閉山時の建物の配置図

現在も半数の建物が残っています。

島の中央部にあったレンガ造りの建物です。総合事務所の中心には、瓦底マントのための大きな共同浴場がありました。浴槽はいつも満ったかったみたいでした。この辺には多くの建物がありましたが、現在ではそのほとんどが解体しています。

総合事務所

天川の圍堤

明治期、島の沿岸に伴う崖づくりは、石灰と赤土を混ぜた天川（あまかわ）と呼ばれる遮断工法で石積み工法により盛んに行われました。これらの跡は現在でも島内の至る所に残っており、趣向独特的景観を生み出しています。



ライフライン

食料や生活の備蓄は、確実でなければ意味がない。電気は当初、他の家電製品で供給されていますが、人口の増加などに伴い電力不足になったため、1915(大正4)年に馬鹿島から海底へケーブルが敷かれ、送電されるようになりました。

▲ 第一電燈配電所は半島北側の海岸沿いで開設していました。



1958(昭和33)年完成。それまでは、小中学校の前にありました。島唯一の大規模なための複数棟が建設されました。3ストアールブルーの幼稚園プールが併設されましたが、海水を使っていました。

65号棟屋上の幼稚園もプールがありましたが、

こちらは完成した1952(昭和27)年当初から海水

水を使っていました。

プール



30号棟-31号棟アパート



1916(大正5)年に建てられた30号アパートは、日本最初の鉄筋コンクリート造の高層アパートといわれています。総社社宅として建設され、内には遊歩抜きの地下二階段があり、地下には売店もありました。31号棟は総社社宅では、地下一二段の共同浴場があり、1階には那須屋や理髪店も設置されていました。



鈴炭ベルコンクリートペア



鈴炭（精選された石炭）は、このペルコンペアによって炭坑場に運び込まれた。石炭は船に積み込まれました。今はその支柱が残るのみです。



第二坑坑口棧橋跡



雄島社

危険と振り合ひながらの経営者たちにとって、社員心の問題であったり、毎月3日目の神祭は全島を挙げて盛大に行われました。神殿の前に洋式も含めましたが、倒壊してしまいました。現在は洞窟で復元されています。



雄島小学校



雄島病院・隔離病棟



1958(昭和33)年完成。命がけで採炭に勤む払員やその家族の健康を守ってくれる病院の存在は、雄島に住む人々にとって、さぞ強かったことでしょう。

建物一覧表

建造年	建築年	名称	面積(m ²)	構造
1915	1915(大正4)	本会館	1,000	鉄筋コンクリート
2年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
24	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
34	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
7年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
12年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
12年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
12年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
17年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
18年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
20年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
21年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
22年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
23年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
25年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
26年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
32年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
33年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
40年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
51年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
54年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
55年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
56年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
57年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
58年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
59年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
60年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
61年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
62年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
63年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
64年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
65年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
66年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
67年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
68年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
69年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
70年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート
71年	1955(昭和30)	RC造3階	10	鉄筋コンクリート

参考文献

重慶島バノフレット

ハイギクトマト等

筆者紹介

藤本
正敏

■ ■ ■
1949年生まれ 兵庫県姫路市 出身
一級建築士・ペリトージュペーパージャー
建築士会会員（日本）

American Society of Architectural Illustrators member(アメコア)

発行・印刷・製本は個人の趣味の中での行動であり 著作権等は 藤本 正敏にあります。

本書の内容を無断で転記・起債する事は禁じます。
内容についてのお問い合わせは メールのみ メール : fujimoto@box@email.ne.jp